

聞き手/チャンネルO 北村 郁子 アナウンサー



小浜市では、新型コロナウイルスの感染防止対策として、昨年3月から、希望される市民の皆さんへのワクチン接種を開始しました。小浜市の接種率は、12歳以上の対象者のうち、2回目の接種を終えた人が、昨年12月末時点

④ 新型コロナウイルス感染症対策 / 防止と支援

容量の通信ネットワークを整備しました。児童生徒は、登校とともに学習用タブレットを立ち上げ、健康状態や朝のメッセージなどを入力するほか、学習時間では、写真撮影や文字・音声入力による検索、作図、グループ学習など多様な活用方法を取り入れていきます。今後は、学校での学習の効果をさらに上げていくことに合わせ、学習用タブレットの持ち帰り学習にも積極的に取り組みます。

昨年より、自主防災組織を対象に、「地域防災マップ」の作成研修会を実施し、各地域における自主防災組織の取り組みの強化を図っています。今年度は、「小浜市防災士の会」と連携した取り組みも進め、地域全体の防災力の強化・向上につなげていきたいと考えています。

⑤ 生活防災 / 保健・医療・交通、快適便利

治水対策事業では、江古川の中流部において、県が令和2年度から輪中堤工事に着手しています。市においても内水対策として、山側からの排水計画を含む道路の整備工事に着手しており、今後も、輪中提整備の進捗に合わせ、事業を進めていきます。

⑥ 行財政 / 未来に夢・生きがい・協働

北陸新幹線が全線開業すれば、移住・定住や観光振興・企業誘致など、地域活性化に、またとない機会となります。現在、敦賀・新大阪間で駅・経路の選定に向けた手続きが順次進められています。小浜市としてもこの手続きを迅速かつ着実に進め、令和4年度の早い時期に完了するよう、引き続き協力していきます。

早期全線開業に向けては、今後も、令和12年度末ごろまでの新大阪までの全線開業の実現に向け、引き続き、関西や北陸地域とも連携を強めながら、政府・与党に対してより一層要望を、

⑦ 環境文化観光 / 魅力増

現在、観光地域づくり法人である株式会社まちづくり小浜と、市内の宿泊や交通事業者が中心となり、「観光戦略」を策定中です。今後は、観光戦略を基に関西圏、関東圏に加え、北信越地域に対して積極的な情報発信を行います。また、体験型・滞在型観光で稼げる地域づくりとしての人材を育成し、持続可能な観光振興の体制づくりを努めたいと考えています。

⑧ 子育て教育環境 / 少子化対策と共生

限られた財源を最大限に活用する中、昨年4月には、県内他市に先駆け、一時預かり保育の利用料について、第2子以降の児童分を無料としたほか、第1子が双子や三つ子など多胎児の場合は、全ての児童分を無料としました。また、現在0歳から2歳の第2子がいる、世帯年収360万円未満相当の世帯の保育料が無償となっていますが、今年9月からは、年齢問わず第2子がいる、世帯年収640万円未満相当の世帯の保育料を無償化する予定です。



新しい時代ではありませんが、市民の皆さんと行政が一丸となり、コロナ禍という難局を乗り越え、新たな小浜市をみんなで描いていけるよう、まちづくりに全力で取り組んでいきます。

⑨ 子育て教育環境 / 少子化対策と共生

さらなる子育て支援策として、今年4月からは、これまで中学卒業年齢までを対象としていた子ども医療費助成の窓口無料化を、高校卒業年齢までに拡充することとしました。教育環境については、昨年度末に全ての小中学校で児童生徒1人1台の学習用タブレットおよび、校内の高速大

育成！ ふるさと小浜デザイン

夢と希望をもって生活できる社会の実現に向けて本市にとって、令和3年は市制70周年を迎え、記念すべき節目の年となりました。新型コロナウイルス感染症への対策や北陸新幹線全線開業に向け、令和4年のまちづくりを、松崎市長が語ります。

令和4年 松崎晃治市長 新春インタビュー



昨年、今後10年間のまちづくりの指針として、目指す将来像を「みんなで描く、悠久の歴史と風土が活きるまち」新たな時代の御食国「若狭おばま」と定めた「第6次小浜市総合計画」を策定しました。今後、北陸新幹線全線開業など新高速交通時代の幕開けに向けて、市民の皆さん・団体・事業者・行政や地域資源を含めた「みんな」で未来の姿を描く、オール小浜体制での協働によるまちづくりを加速していきます。

私は就任4期目の公約として、6つの柱からなる「育成！ふるさと小浜デザイン」を基に、各種施策を進めています。

① 産業 / 経営力 & 発信力を拡大

企業誘致については、竜前企業団地に、複数の企業の進出が決定しています。今後は、企業の事務所機能などを持つ「サテライトオフィス」の誘致についても、取り組んでいきます。

② 環境文化観光 / 魅力増

現在、観光地域づくり法人である株式会社まちづくり小浜と、市内の宿泊や交通事業者が中心となり、「観光戦略」を策定中です。今後は、観光戦略を基に関西圏、関東圏に加え、北信越地域に対して積極的な情報発信を行います。また、体験型・滞在型観光で稼げる地域づくりとしての人材を育成し、持続可能な観光振興の体制づくりを努めたいと考えています。



道の駅「若狭おばま」に、「和久里のごはんやおくどさん」がオープン。地元農産物や店内の羽釜で炊いたごはん、自家製ドーナツなどが楽しめる。

農業産物をふんだんに使ったレストラン「おくどさん」がオープンしました。今後は、道の駅物販施設の隣に、地元野菜を取り扱う直売スペースを含めた増設を予定しています。漁業では、市内で養殖されている小浜よつばらいサバなどのブランド魚を、すしなどで販売したところ、観光客などを中心に好評を得ました。

③ 子育て教育環境 / 少子化対策と共生

そのほか、近年、文化財や町並みの中で、その土地の歴史物語を体感する「文化観光」が旅の様式として注目され、多様な基盤整備が進んでいます。今後は、外国人旅行者の取り込みも見据え、鯖街道の山歩きやサイクリングなど、アウトドア系の文化観光にも力を注いでいきます。

さらなる子育て支援策として、今年4月からは、これまで中学卒業年齢までを対象としていた子ども医療費助成の窓口無料化を、高校卒業年齢までに拡充することとしました。教育環境については、昨年度末に全ての小中学校で児童生徒1人1台の学習用タブレットおよび、校内の高速大